

## 不登校児童生徒への対応事例3（小学校第4学年男子）

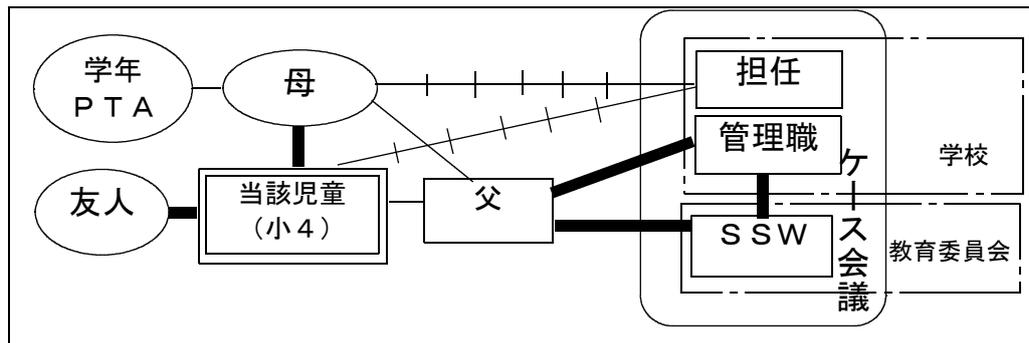
### ～SSWとの連携、校内体制の充実～

#### 問題の把握

当該児童は、小学校第4学年の2学期まで欠席がほとんどなかったが、3学期から不登校となった。同時に、母親も担任による家庭訪問や電話を受け付けない状態となった。

学校は、当該児童の友人関係には問題が生じていないことから、不登校になった原因を把握できず、具体的な対策がとれない状況となった。

#### 対応状況



#### 2月 アセスメント

- 当該児童は、両親と3人家族である。父親は当該児童の状況を心配し学校を訪れ学級担任等に相談していた。
- 母親は専業主婦であり、日常的にストレスを感じていて、体調を崩すことがあった。
- 当該児童は母親依存の傾向にあり、不登校時は常に母親と一緒に生活を送り、外部との接点を閉ざしていたが、生活リズムについては、大きく乱れることはなかった。

#### 3月～4月 ケース会議

- 学校は、校内ケース会議を組織し、2月から4月末までに6回開催した。（構成員：校長、教頭、生徒指導主事及び生徒指導部、学級担任、養護教諭等10名）
- SSWは、6回開催したケース会議のうち、3回の会議に出席した。会議では、当該児童について共通理解を図るとともに、担任等の役割を明確にし、不登校の改善に向けて取り組む全校的な体制づくりを行った。
- SSWは、校長、教頭とともに父親との話し合いを5回行い、母親の変容を促すための具体的な方策を協議した。

#### 4月～6月 継続的な 家庭への支援

- 校長とSSWは、母親の願いや悩みを受け止めることができるよう、連携を図り、母親と話し合いの機会をもち、傾聴に努めた。
- 学級担任は、学級の児童に対して、当該児童が登校する際に不安を抱かないよう、手紙を書いたり遊びに誘ったりする取組を進めた。
- 当該児童は、継続的な支援をしたことにより、級友と放課後や休日に遊ぶ機会が増え、6月から登校できるようになった。

#### 不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・ 学校は、不登校児童に対して組織的に対応できるよう校内体制を整備するとともに、児童の自立を促す指導や不登校傾向の見られる児童への対応など、生徒指導体制を充実すること。
- ・ 学校と関係機関は、役割分担を明確にしながらか支援に当たるとともに、情報共有を確実に行うこと。
- ・ 学校は、教育委員会等と連携を図り、家庭の状況を適切に把握するとともに、改善に向けて組織的に対応する体制を充実すること。